

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	浜松情報専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程 (工業)	セキュリティネットワーク科	夜・通信	540	160	
	コンピュータ科	夜・通信	540	160	
	ゲームクリエイイト科	夜・通信	570	240	
	CAD科	夜・通信	630	160	
専門課程 (商業実務)	ビジネスライセンス科	夜・通信	660	160	
	医療事務科	夜・通信	960	160	
	国際ITビジネス科	夜・通信	2,220	240	
専門課程 (教育・社会福祉)	こども保育科	夜・通信	2,165	240	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.hamasen.ac.jp/files/course_subject.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	浜松情報専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ (http://www.sist-net.ac.jp) にて公開中の事業報告書に記載

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日	学校法人運営についての意見 財務担当
非常勤	株式会社役員	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	学校法人運営についての意見 情報IR担当
(備考) 学外者である理事は上記の2名を含め合計8名。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	浜松情報専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程および公表について</p> <p>1 2月～ 次年度授業計画策定</p> <p>1月～ 教員へ授業計画(シラバス)作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布 ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 <p>2月～ 授業計画(シラバス)回収・チェック</p> <p>3月～ 授業計画(シラバス)公開</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.hamasen.ac.jp/files/syllabus2019.pdf
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各科の定めるディプロマポリシー(卒業認定・専門士授与の方針)に掲げる資質・能力の修得状況等は、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の「成績評価の方法」に掲げる方法に加え、学生生活上の客観的な指標、卒業対象学生に行うアンケート調査の状況、各種資格取得状況・制作した作品のレベルと志望進路状況(専門領域への就職率及び進学率等)から学修成果の達成を評価する。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0~100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評語の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80~100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70~79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60~69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0~59点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = ((4×優の科目数)+(2×良の科目数)+(1×可の科目数)) ÷ 科目数

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.hamasen.ac.jp/files/objective_indicator.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
 - 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。
 - 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。
- 本校のディプロマポリシーのに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

全校共通および各学科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、全ての科目を修得(不可科目がないこと)した者に卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.hamasen.ac.jp/files/diploma_policy.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	浜松情報専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan01_02-H30.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan01_03-H30.pdf
財産目録	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan01_01-H30.pdf
事業報告書	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan02_01-H30.pdf
監事による監査報告（書）	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan03_02-H30.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	セキュリティネットワーク科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040 単位時間/単位	690 単位時間 /単位	1,110 単位時間 /単位	240 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,040 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		49人	0人	2人	9人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
(概要) 授業計画（シラバス）の作成過程および公表について 1 2月～ 次年度授業計画策定 1月～ 教員へ授業計画（シラバス）作成依頼 ・ 授業計画（シラバス）ガイドライン配布 ・ 授業計画（シラバス）テンプレート配布 2月～ 授業計画（シラバス）回収・チェック 3月～ 授業計画（シラバス）公開			
成績評価の基準・方法			
(概要) 各期末に試験を行う。 成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2

可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数= ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

学修支援等

(概要)

小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	2人 (12.5%)	13人 (81.3%)	1人 (6.2%)

(主な就職、業界等)

IT業界、通信ネットワーク業界等

(就職指導内容)

1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。

(主な学修成果（資格・検定等）)

情報セキュリティマネジメント試験 14名
 基本情報技術者試験 2名
 情報処理安全確保支援士 1名
 工事担任者DD3種 6名

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	コンピュータ科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,070 単位時間/単位	660 単位時間/単位	1,320 単位時間/単位	150 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		2,130 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	88人	1人	5人	11人	16人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業計画 (シラバス) の作成過程および公表について 1 2月～ 次年度授業計画策定 1月～ 教員へ授業計画 (シラバス) 作成依頼 ・ 授業計画 (シラバス) ガイドライン配布 ・ 授業計画 (シラバス) テンプレート配布 2月～ 授業計画 (シラバス) 回収・チェック 3月～ 授業計画 (シラバス) 公開			
成績評価の基準・方法			
(概要) 各期末に試験を行う。 成績表は、科目ごと4段階評語 (優・良・可・不可)、素点 (0～100点) による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数			

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ●職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	0人 (0%)	34人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) IT業界、通信ネットワーク業界等			
(就職指導内容) 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
応用技術者試験		3名	
基本情報技術者試験		17名	
C言語プログラミング能力認定試験2級		13名	
工事担任者DD3種		12名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75人	2人	2.7%

(中途退学の主な理由) 体調不良及び進路変更
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	ゲームクリエイト科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,060 単位時間/単位	360 単位時間/単位	2,580 単位時間/単位	180 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		3,120 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	64人	2人	4人	15人	19人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																				
(概要) 授業計画 (シラバス) の作成過程および公表について 12月～ 次年度授業計画策定 1月～ 教員へ授業計画 (シラバス) 作成依頼 ・ 授業計画 (シラバス) ガイドライン配布 ・ 授業計画 (シラバス) テンプレート配布 2月～ 授業計画 (シラバス) 回収・チェック 3月～ 授業計画 (シラバス) 公開																				
成績評価の基準・方法																				
(概要) 各期末に試験を行う。 成績表は、科目ごと4段階評語 (優・良・可・不可)、素点 (0～100点) による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数																				
卒業・進級の認定基準																				
(概要) 本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教																				

<p>育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ●職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本校のディプロマポリシーのに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) IT・Web 業界等			
(就職指導内容) 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験 2名 C言語検定3級 13名 C言語検定3級 10名 色彩検定3級 14名 CGエンジニア検定ベーシック 13名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	CAD科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040 単位時間/単位	870 単位時間 /単位	1,170 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,040 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		44人	3人	2人	7人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要)			
授業計画 (シラバス) の作成過程および公表について			
1 2月～ 次年度授業計画策定			
1月～ 教員へ授業計画 (シラバス) 作成依頼			
・ 授業計画 (シラバス) ガイドライン配布			
・ 授業計画 (シラバス) テンプレート配布			
2月～ 授業計画 (シラバス) 回収・チェック			
3月～ 授業計画 (シラバス) 公開			
成績評価の基準・方法			
(概要)			
各期末に試験を行う。			
成績表は、科目ごと4段階評語 (優・良・可・不可)、素点 (0～100点) による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。			
成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要)			
本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。			
● 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。			
● 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。			
● 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。			

本校のディプロマポリシーのに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。
学修支援等
(概要) 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ケーテック株式会社、TGテクノ株式会社、株式会社小出製作所、株式会社東洋鐵工所、シブヤ精機株式会社、株式会社光和設計、製造業界等			
(就職指導内容) 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) CAD利用技術者試験2級 17名 CAD利用技術者試験1級 12名 3次元CAD利用技術者試験2級 3名 3次元CAD利用技術者試験1級 1名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.8%
(中途退学の主な理由) 学校集団生活への不適合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	専門課程	ビジネスライセンス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

2年	昼	2,040 単位時間/単位	900 単位時間 /単位	1,140 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,040 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	35人	1人	3人	9人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																				
<p>(概要)</p> <p>授業計画 (シラバス) の作成過程および公表について</p> <p>1 2月～ 次年度授業計画策定</p> <p>1月～ 教員へ授業計画 (シラバス) 作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画 (シラバス) ガイドライン配布 ・ 授業計画 (シラバス) テンプレート配布 <p>2月～ 授業計画 (シラバス) 回収・チェック</p> <p>3月～ 授業計画 (シラバス) 公開</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>(概要)</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語 (優・良・可・不可)、素点 (0～100点) による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数</p>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
卒業・進級の認定基準																				
<p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ● 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ● 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本校のディプロマポリシーのに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>																				

学修支援等 (概要) 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	15人 (88.2%)	2人 (11.8%)
(主な就職、業界等) (株)ヤマハ発動機、J A とぴあ、日本郵便(株)、静岡日野自動車(株)等地元企業等			
(就職指導内容) 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) FP 技能検定 3級 14名 秘書検定 2級 14名 日商簿記 3級 14名 日商販売士 3級 13名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	1人	3.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	専門課程	医療事務科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040 単位時間/単位	1,020 単位時間/単位	810 単位時間/単位	210 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,040 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人	49人	0人	3人	13人	16人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 授業計画（シラバス）の作成過程および公表について 1 2月～ 次年度授業計画策定 1 月～ 教員へ授業計画（シラバス）作成依頼 ・ 授業計画（シラバス）ガイドライン配布 ・ 授業計画（シラバス）テンプレート配布 2 月～ 授業計画（シラバス）回収・チェック 3 月～ 授業計画（シラバス）公開																				
成績評価の基準・方法 （概要） 各期末に試験を行う。 成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数=（4×優の科目数）+（2×良の科目数）+（1×可の科目数）÷科目数</p>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
卒業・進級の認定基準 （概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 ●専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ●職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 本校のディプロマポリシーのに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。																				
学修支援等 （概要） 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 医療事務業界、調剤事務業界、介護事務業界等			
(就職指導内容) 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。 また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療事務検定 11名 100% 調剤事務認定試験 11名 100% 介護事務（ケアクラーク） 10名 91% 医師事務作業補助技能認定試験 11名 100%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	こども保育科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,120 単位時間/単位	1,305 単位時間/単位	1,410 単位時間/単位	450 単位時間/単位	3,165 単位時間/単位	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	43人	0人	3人	34人	37人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）の作成過程および公表について

- 1 2月～ 次年度授業計画策定
- 1月～ 教員へ授業計画（シラバス）作成依頼
 - ・ 授業計画（シラバス）ガイドライン配布
 - ・ 授業計画（シラバス）テンプレート配布
- 2月～ 授業計画（シラバス）回収・チェック
- 3月～ 授業計画（シラバス）公開

成績評価の基準・方法

（概要）

各期末に試験を行う。

成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

学修支援等

（概要）

小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

26人 (100%)	0人 (0%)	24人 (92.3%)	2人 (7.7%)
(主な就職、業界等) 私立幼稚園、私立保育所、私立認定こども園等			
(就職指導内容) 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。 また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 幼稚園教諭2種免許 24名 保育士 24名 幼児体育指導者検定3級 26名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	3人	5.7%
(中途退学の主な理由) 体調不良・法人内転校・経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	国際ITビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,430 単位時間/単位	単位時間 /単位	2,430 単位時間 /単位	450 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		2,430 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		90人	90人	6人	15人	21人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画 (シラバス) の作成過程および公表について 12月～ 次年度授業計画策定 1月～ 教員へ授業計画 (シラバス) 作成依頼 ・授業計画 (シラバス) ガイドライン配布 ・授業計画 (シラバス) テンプレート配布 2月～ 授業計画 (シラバス) 回収・チェック 3月～ 授業計画 (シラバス) 公開

成績評価の基準・方法			
<p>(概要)</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0~100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p>			
評語	素点	意味	ポイント
優	80~100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70~79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60~69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0~59点	到達目標を充足していない。	0
$\text{成績評価指数} = \left((4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \right) \div \text{科目数}$			
卒業・進級の認定基準			
<p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育によるホスピタリティマインドを備えたビジネスパーソンの育成と、教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ● 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ● 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>			
学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	15人 (83.3%)	3人 (16.7%)
(主な就職、業界等)			
ハウスコム(株) 静岡就労支援センター (株)I ベジコープ 鈴覚(株)T シロワ部品工業(株) 浜松ミクロン(株) MCS 協同組合 (株)アイゼン 等			
(就職指導内容)			
1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			

(主な学修成果 (資格・検定等))	
日本語能力検定試験	N1 3名、N2 24名、N3 14名
サービス接遇検定	準1級 7名、2級 1名、3級 3名
日本語ワープロ検定	準2級 2名、3級 16名、4級 17名
表計算検定	2級 1名、準2級 17名、3級 10名
(備考) (任意記載事項)	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
105人	30人	28.6%
(中途退学の主な理由) 出席・学業不良による退学、ビザ更新不許可等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
セキュリティネットワーク科	250,000 円	920,000 円		
コンピュータ科	250,000 円	920,000 円		
ゲームクリエイト科	250,000 円	920,000 円		
CAD科	250,000 円	920,000 円		
ビジネスライセンス科	250,000 円	920,000 円		
医療事務科	250,000 円	920,000 円		
こども保育科	200,000 円	700,000 円		
国際ITビジネス科	150,000 円	680,000 円		
修学支援 (任意記載事項)				
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生A・準特待生B・準特待生Cを認定する。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hamasen.ac.jp/files/assessment.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な評価項目 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流 ・評価委員会の構成 定員：8名 (企業：5名 卒業生：1名 地域・教育関係・保護者：2名) ・評価結果の活用方法 評価結果について、校長 (責任者) を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
社会福祉法人 花の園会 たんぼぼ 保育園 園長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員
小野経営科学研究所 代表	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員
一般社団法人システムコラボ・マネジ メント 理事長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員
公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員

Recesin 株式会社 代表取締役	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	企業委員
浜松情報専門学校 同窓会 会長	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	卒業生
松江町自治会	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	地域住民
浜松情報専門学校 後援会 会長	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hamasen.ac.jp/files/assessment.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hamasen.ac.jp/files/schoolinfo.pdf
--